

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター秋季号<第45号> (平成12年9月15日発行)

巻頭言

名人芸と褒章

九州支部副支部長 田中 穰治 (福岡・経営工学)

五・六年前上京した際、所用で青山通りから神宮外苑に抜ける銀杏並木を歩いていました。ラッシュアワーにはまだ早く、人影の疎らな通りでせわしく働いているのは、数人の清掃の人達です。路上は昨夜の巨人—ヤクルト戦の熱気を残しているかのように、清涼飲料水の空缶や煙草の吸殻が散らばっています。熊手や箒でゴミを掻集めている人達の中で一人だけ風変わりなことをしている人を見付けました。彼の右手には先端に針が着いた棒、左手は手元のハンドルを強く握ると先端のプラスチック製の鉤爪が開いて物を掴む事のできる玩具のマジックハンドを持っています。腰からは1m余りの紐で自在車の付いたゴミ入れの竹籠を引張り、腹側には直径10cmの空缶をベルトにつけています。鶏が餌を啄むように針付棒で地面をコツコツ突きながら100発100中で吸殻を串刺しにし、5～6個溜まる毎にベルトに着けた空缶に入れます。飲料水の空缶があると左手のマジックハンドでヒョイと掴み、後ろも見ないで、そのまま肩越しに竹籠に放り込みます。これまた一個の失敗もありません。あまりの見事さにしばし見とれていました。

話は変わりますが、鉄骨構造物の組立作業は現在は殆ど電気溶接です。しかし、一昔前まではリベットによる締付けが一般的でした。リベットの準備は二人の組作業で、階下の作業者がコークスで真赤に焼いたリベットを鋏(ヤットコ)で炉から取出し投上げると、階上の相棒はブリキで作った円錐形のカップで受留めて、鋏で挟んで予め鉄骨にあけた穴に差込むと、先任らしい他の一人が、受け手が押さえるリベットの反対側の先端をエアガンで叩き潰し鉄骨同士を締結します。よほどの熟練とチームの呼吸が合わねば極めて危険な仕事です。たまたま私が見たのは、階上の受け手はカップは使わずに飛んで来たりベットを直接鋏で掴み、そのまま穴に差込んでいました。息の合ったコンビの名人芸に見惚れた私は、エアガンの騒音など全く耳に入りませんでした。

名人芸を国が認めて表彰する褒章や人間国宝の制度があります。文化の日が近くなると、いろんな人達の名前が新聞に出ますが、同じ職人衆でも高級焼物、友禅の絵付など芸術的、非日常的な業務に携わる人達が多いようです。いくら名人芸といっても上記の清掃の小父さんや、リベット打ちの仲間が受賞することは絶対にありませんし、恐らく彼等も褒章等は夢にも考えたことはないでしょう。しかし、実際に世の中の役にたっているのは街の大工や左官、機械工や溶接工であり、その中の焼物や染物で表彰されるような名人も沢山いるはずですよ。

最近、NHKで毎週「プロジェクトX」と言う番組を放映しています。新幹線やYS-11の開発、黒四ダムや富士山レーダーの建設等に従事した技術者達の話が主で、プロジェクトが終了した後、彼等は荣誉や名声を求めず、その大部分は再び元の技術の世界に戻って行きます。特に私が感銘したのは、胃カメラを開発した医者が、その普及のために特許も取らずに、用意された東大教授の椅子も蹴って、一介の町医者として胃ガンの早期発見に生涯を捧げたことでした。

政府は勲章さえ与えれば人々のモチベーションになり、文化や技術の進歩・発展に寄与できるとも思っているのでしょうか。本当の進歩・発展は、仕事を天職と思っている名も知れない多くの技術者や名人芸の職人達によって支えられ、その精神は現在も受け継がれていると思います。

1人でも多くの方の入会をお勧め下さい

私の提言

説 得 と 人 格

九州技術士センター監事 是石 俊文 (福岡・建設)

耳川の別名は美々川。ひえつき節の故郷、宮崎県椎葉村の熊本県境を水源とし、日向市美々津で太平洋に注ぐ2級河川である。

昭和50年夏、耳川・五ヶ瀬川の9ダム・12発電所やその他の土木構造物を管理する九州電力(株)日向電力所に勤務した。

大内原ダムは耳川最下流のダムで、流域面積737km²、洪水水量5,000m³/s、ローラーゲート6門を持つ。ダム式発電所は出力16,000kW、最大使用水量120m³/s。九州脊梁山地東斜面の出水は早く、例年3月雛祭りを過ぎる頃には初放流を行わざるを得なくなり、ダム周辺から河口までダム放流を警告するサイレンが鳴り響く。ダムゲートの真上流に沈殿していた堆砂がシルト分と共に流出し、河口へ向かう。

丁度その頃約25km下流の河口一帯では、シラス漁(養殖用に鰻の稚魚を捕獲する)の最盛期である。一時的ながら或程度のシルト分を含むため、放流水の濁りは避けられず、関係漁協から強い苦情を受けるのが年中行事化していた。放流水の濁りが、河川礫に着生して鮎の餌になっているカワ苔を死滅させ、鮎の成長を阻害するというのだ。

その濁りは流域内の様々な建設工事などで発生する廃土の河川不法投棄などが原因ですと、多くの時間とエネルギーを費やして説明しても中々理解して貰えなかった。

「自分としてはできるだけ努力はしたのになぁ、何故理解して貰えなかったのかなぁ」と、相手に対する不満のみを抱いて、4年間の勤務を終えた。

昨年の技術士第二次試験の建設一般の問題は『国民の理解を得ながら社会資本整備を進める上での現状での問題点について述べるとともに、説明責任(アカウントビリティ)向上のための方策について、あなたの意見を述べよ』であった。ここで“国民”を“流域住民”に、“社会資本整備”を“ダム運用”

に読み換えれば、この問題は、そのまま25年前の私が直面していた問題である。アカウントビリティという言葉は知らなかったにしろ、十分に相手の立場を尊重した説明を行っていたかと反省すると、恥じる外ない。

さて今春、(有)九州技術支援センターの筆記試験受験短期講座の準備に取りかかる前、久し振りに鈴木大拙著「禅とはなにか」を手にした。読み進むうちに次の一文に出会った。

『(前略) 教えというものは、いかに心理にならなくて論理的であっても、ただそれだけでは無駄ごとである。その奥に何かなければならぬ。(中略) まず言うことが本当でなくてはならぬが、その外にその言っているところの者の人格が、その真実の中に加わって来ることが必要である。論理や事実の上に、人格が加わるといって、われわれはその説以外に一個の圧迫を感じてくる。つまり信じなければならぬというような心持をさせられてくる。しかも、これが一番大事なことなのである。(後略)』(アンダーラインは筆者)。

眼から鱗が落ちる思いというのはこのことだろう。幾度も幾度もダム運用技術や地域開発工事の影響などを論理的に説明したのに理解して貰えなかったのは、地域の人々の理解力の問題だと考えていた。だが間違っていた、そうではなくて、自分自身の人格の問題であったと警策をくらったのである。

今年の講座も終わった。それなりの準備のもとに取り組んだが、果たして受講生の心に響き、所期の成果を挙げ得たであろうかと疑念が残る。足りなかったものは明白である。

こうして、昭和42年刊、全ページがすっかり茶褐色に変色し尽くしたこの文庫本は、長い間潜んでいた書架の片隅から踊り出て、一挙に、私のところに棲みつくこととなった。

中央・本部情勢について

中央、本部情勢として支部長会議、その他本部等関係者から得た情報を基に、自分なりに大胆に今後の予測を混じえて記述することにした。はっきり決まった段階まで待ったのでは、タイミングを失してニュース性が損なわれるから。本部の機関紙「技術士」の内容とあわせて中央の動向を察知願いたい。

九州支部長 川崎 迪一

◎ 技術士法の改正で どのように変わるか

- ① 技術士第二次試験の問題は、2年間に限り認められている業務経験7年以上の受験者についても、全一の問題となる。(区別なし)
- ② 必須、選択問題でも最近では論文式が多かったが、一部、択一式が出題される。受験者各人の今迄の業務経験によって、かなりの得点が可能となるはずである。
- ③ 今後、受験者が増えるとともに合格者も増えるが、これは質の低下ではなくて、技術士にふさわしい、プロの一人前の技術者が合格するようになるからである。
- ④ 特別(上級)技術士の創設は法制上なじまないとのことで、代わりに第20番目の部門になるが、1ランク上の技術士として「総合技術監理部門」が創設される。現在の技術士は必須科目として「総合技術監理一般」のみの受験で他は免除される。試験の内容として、安全管理、社会環境、経済性、情報管理、人事管理等となっている。
- ⑤ 技術士の継続教育(Continuing Professional Development 以下CPDと称す)については、関係学・協会と(株)日本技術士会とで構成される「CPD連絡協議会」を設置し、目標として、3カ年間で150時間の教育研修が必要と云われている。1年間で50時間は過大に過ぎると思われるが、各支部内の研修で済むようにして欲しいものである。CPDは現時点において努力目標であって、達成できない場合のペナルティがないのが問題点である。今後、更新制度の導入について検討が必要となるであろう。

◎ 技術士等の英文名称について

技術士 Professional Engineer

全略称 P. E. Jp

(株)日本技術士会

The Institution of Professional Engineers, Japan

全略称 IPEJ となる方向である。

英文名称について従来から、PEかCEかについては議論があり、一部からコンサルティングエンジニアにすべきとの強い主張があっていた。これは昭和26年の「日本技術士会(通産省所管)」の創設時に、欧米のコンサルティングエンジニアの邦訳を「技術士」としたのに由来しており、この欧米の制度を我国に取り入れて普及確立させるための強力な「技術士法」制定運動の歴史的成果によるものである。

昭和32年「技術士法(科学技術庁)」が成立し、33年をはじめ法定の「技術士」が誕生する。現在の技術士の内訳は、専門技術士12%、コンサルタント会社勤務40%、一般会社、その他官公庁を含め48%となっていることから、CEはPEの一部であって、インハウスエンジニアを含めた技術者全般を表現する意味においても、PEが適当であろう。

◎ (株)日本技術士会 50周年記念行事

第28回技術士全国大会を兼ねて、実行委員会で作画されている内容

日 時 2001年7月18~23日

場 所 ホテルニューオータニ東京、他

参加人員 1,200人、内来賓100人を予定

記念大会 7月19日(休) 10:00~20:30

大会テーマ

新世紀の新たな技術士像を求めて

記念講演会

シンポジウム・分科会(豊かな国際感覚と飽くなき新技術への挑戦)

記念パーティ他

50周年記念誌の出版

記念懸賞論文の募集(21世紀の技術士像)

研修旅行(含海外)、見学会、

ゴルフ会

レディスプラン その他

第30回日韓技術士会議ご案内

テーマ「東アジアの環境問題」

日時：平成12年11月13日(月) 第30回日韓技術士会議

11月14日(火)・15日(水) 合同研修旅行

会場：「シーホークホテル&リゾート」

福岡市中央区地行浜2-2-3 (「福岡ドーム」隣)

TEL：(092)844-8111

参加資格：日韓両国技術士・技術士補・賛助会員・
学生(留学生含む)・一般(学校・企業等
より)

*ご同伴参加を歓迎致します。

参加申込み締切：平成12年10月13日(金)

申込み：添付の振込用紙をもって、申込書に代え
せて頂きます。参加される方は、出席される分科
会のナンバーを忘れずに記入してください。

申込み先は(株)日本技術士会九州支部、第30回日
韓技術士会議事務局となります。

ホテル・航空券等は原則として各自で手配をお
願いします。

なお、シーホークホテルに宿泊される方は、特
別割引料金が適用されますので必ず「日韓技術士
会議福岡大会参加」と明記、次の事項を記入し、
FAXで直接申込んでください。

①氏名(フリガナ)、性別、生年月日

②住所

③連絡先：電話及びFAX

④部屋別：シングル又はツイン

ツインの場合は同伴者氏名を記入してくださ
い。

⑤宿泊期間

なお、特別価格が適用される期間は、11/
12(日)～11/16(木)に限ります。これ以外の日は
通常価格となります。

宿泊申込み先：シーホークホテル&リゾート

宿泊予約係宛

FAX：(092)844-7899

※レディースプラン(11月13日)

9：30 シーホークホテル玄関前集合

9：45～17：00 福岡タワー、大濠公園、ショ
ッピング等

18：30 友好晚餐会へ合流

(会員外の参加者については各支部でまとめます)

参加費：会議等参加費(昼食を含む)

イ)登録料

技術士・技術士補 7,000/人

賛助会員(1人)・一般参加 5,000/人

学生(留学生を含む) 1,000/人

ロ)レディースプラン 3,000/人

ハ)友好晚餐会 8,000/人

同伴者 5,000/人

ニ)合同研修旅行 28,000/人

同伴者 25,000/人

参加費支払い方法：上記振込用紙によります。

会議日程

11月13日(月) 第30回日韓技術士会議

8：45～9：30 受付

9：30～10：00 会議式典

10：00～12：30 合同シンポジウム
基調講演/発表講演

12：30～13：30 昼食

13：30～17：30 分科会

① 環境問題

② 東アジアの観光資産

③ 建設と安全

④ 技術士資格問題

⑤ I.T.問題(英語発表)

18：30～20：30 友好晚餐会

11月14日(火)「合同研修見学旅行」第1日目

8：15 シーホークホテル玄関前集合

8：30～11：00 九州縦貫道を経て阿蘇山頂

11：00～12：00 阿蘇火口周辺見学

12：00～13：00 草千里にて昼食

14：20～15：10 大蘇ダム建設現場見学

16：30～ 別府地獄巡り

18：00 「杉の井」ホテル着

11月15日(水)「合同研修見学旅行」第2日目

8：00 「杉の井」ホテル発

10：00～11：00 サッポロ麦酒新九州工場見学

12：10 福岡国際空港着

みなさまのご参加を期待します

中小企業支援事業に関する講演会

業務開発委員会委員 向江 宗利（福岡・経営工学）

抜本的改正となった新中小企業基本法に見るように、近年中小企業は従来の下請け依存的体質を脱却し、自助努力による自立的発展が強く求められており、そのために国は経営、資金、技術で積極的に支援することになっています。国、県、地域夫々の中小企業支援体制の中に我々技術士会も参画すべく、その専門能力のアピールと社会的責務を主張してきました。一方、官側でも多角化、高度化が進む技術支援の質的向上、国、大学、大企業等の保有する未利用技術の解放等を実務に詳しい公正な専門家のニーズを感じています。これらの主張やニーズは、後述の通り、徐々に実現化しており、ここ一、二年の間に技術士の役割に対する官側、地域社会の認識がかなり強まった実感があります。

九州支部においても、平成10年8月に業務開発委員会を発足させ、一般企業向けを含め積極的に取り組んできましたが、その成果がようやく実を結び始めたところです。ここでその実績、取組み中の事業内容、将来の展望等を会員に説明し、その希望、意見を聞く必要があると考え、また業務開発をより強力に効率的に進めるために、首都圏における中小企業支援活動状況を知り、導入が可能な事例があれば取り入れたいと技術士会本部に協力を求めたところ快く引き受けて頂き、今回の講演会を開催するに至りました。

当日は7月末の猛暑の中、遠路本部からの永井理事、及び支部泉館業務開発委員長両者のご講演を頂き、その後簡単な懇親会を持ちました。

参加者一同、講演会を通じて技術士会の全国的連帯感、協力関係そして何よりも技術士業務の拡大の芽が育ち始めたことを実感し、本会に参加した意義を感じられたことと思います。

業務開発委員会は、技術士会本部との連携を更に強め、この様な会合を今後も定期的実施し、できれば各県地区でも開催したいと考えています。

技術士会が今後高度な総合エンジニアリング集団として、社会の各層、各機関の諸要請に組織的に対

応出来るようにするためには、会員1人1人の参画が必要です。皆様のより一層のご協力をお願いします。以下講演会概要を示します。

日時：平成12年7月29日 午後1時30分～4時30分
場所：福岡心理福祉学院2階

（福岡市博多駅前3丁目）

出席者：講師：(1)㈱日本技術士会理事 永井雄一氏

演題：「首都圏における中小企業支援事業の事例」

(2)㈱日本技術士会 九州支部

業務開発委員長 泉館昭雄氏

演題：「九州における中小企業支援事業の事例」

参加者：㈱日本技術士会 九州支部

川崎支部長 他計35名

（支部、技術士センター会員）

司会：業務開発委員会 松尾副委員長

1. 川崎支部長挨拶

2. 泉館昭雄氏講演（要旨）

(1)業務開発委員会発足以来の主な事業活動の概要

実績：①工学鑑定業務開拓

（東京海上火災他、12件）

②中小企業支援事業開拓

a ナショナル支援センター、アドバイザー2名派遣（中小企業総合事業団）

b 福岡県支援センター、専門家登録60名（県企業振興公社）

c 特許流通登録アドバイザー、技術士派遣（日本テクノマート）、他6件

計画：③自治体建設物件技術監査業務

④本部との提携による中小企業支援事業、技術評価業務、他

(2)ベンチャー・中小企業の技術開発支援に産と学をコーディネートする専門家集団としての役割

(3)公共事業、銀行の融資先企業等の技術評価、技術監査

3. 永井雄一氏の講演（要旨）

(1) 中小企業問題研究・懇談会の活動

中小企業対策調査委員会で毎年開催している中小企業問題研究・懇談会の最近の千葉県、茨城県および神奈川県での開催の意義および技術士の活動状況

(2) 技術士の役割についての新しい動向

①外国為替管理法（ワッセナー条約，旧ココム）関係

②地域活性アドバイザーの設置

(3) 技術士の生涯教育対策

①技術士法改正による技術士の技術維持のための継続教育

②地方開催の技術士研究発表会の参加意義，他

12年度 第1回合同役員会

平成12年度九州支部・九州技術士センター事業計画

平成12年6月24日(土)午後，博多パークホテルで開催された，12年度第1回合同役員会で承認された，12年度事業計画はつぎの通り。

(1) ㈱日本技術士会九州支部

公益法人に関する指導・監督の強化にとめない，平成12年度より，支部の規則・会計処理等が，本部で統一された基準で行われるようになったことを踏まえて，事務局を共同で維持している「九州技術士センター」「(有)九州技術支援センター」を含めた三者が一致協調して，それぞれ役割を分担し，会員のご支援のもとに所期の目的を達成する。

財務基盤の強化については，未だ不十分で会員のボランティアに依存し，実費の支弁もままならない状況にあり，引き続いて努力する。

つぎに支部会員の組織率としては30%台となっており，全国的には良い方であるが，従来からとってきた「県単位の技術士会」から「九州技術士センター」「㈱日本技術士会」へと，ステップバイステップで，引き続き入会を強力に勧誘してゆく。

技術士の資質の保持と向上のため，研修会・交流会を他の学会や技術関連協会等と連携して，継続教育として実施し，技術を提供して地域の振興発展に貢献する技術士会として，技術士制度の啓発普及を通じて技術士の社会的地位の向上を図ってゆく。

地域に密着した技術士活動を展開して行くために行政サイドの産業振興，技術開発等の関連機関（第三セクターを含む）等と，積極的に交流を図り，技術士業務の拡大を目指す。

従来から行ってきた諸行事は引き続き改善しながら執行してゆくほか，特に新たな業務の開発と会員の技術力の活用について，地域の行政・産業界に強力に働きかけてゆく。

現在，「技術士審議会」より答申された「技術士制度の改善方策について」を踏まえて「技術士法の一部を改正する法律が成立し，来年4月1日から施行されるが，技術士制度について最近の技術の進展および産業社会等からの要請に対応し，「APEC エンジニア問題」等，国際的に整合性がとれた制度に改革して，多くの若い人が広範な分野で「技術士」として活躍できるようにするとともに「技術士」に対して技術力や資質の維持向上のため，継続教育や技術者倫理の研修等を行うとするものである。

このような技術士制度の改革にあたり，支部会員が時流に乗り遅れることなく，また不利益とならないように対応する必要がある。

具体的実施項目はつぎの通り。

1. 会員の増強(賛助会員を含む)を全員で推進する。
2. 財務基盤の強化に特段の努力をする。
3. 平成12年度に九州支部で担当する「日韓技術士会議」(11月13日)を成功させる。
4. 事務局の強化については，情報処理システムの導入を図り，事務処理を合理化し，効率的な事務運営を行う。
5. 地域交流，海外交流，異業種交流を積極的に行う。
6. 講演会，研修会等を外部団体(学会，技術協会等)と連携して実施して，会員の資質の向上を図る。本部で検討されている継続教育について，積極的に対応を検討する。
7. 「技術士だより」の内容の拡充と，インターネット活用による広報の充実を図る。
8. 会員名簿を常時整備し，相互交流，外部へのPRをする。
9. 技術士試験(福岡会場)の実施。
第2次試験会場 九州産業大学(8/23, 24)

第1次試験会場 東和大学 (10月8日)

10. 特別委員会の業務開発委員会を常設委員会として、活動を強化する。
11. 各委員会、地区、部会ごとに、研修会、見学会等を開催し、外部へも開放し、研鑽啓発に努めるとともに、技術力の向上に寄与する。
12. 地域の技術士に対するニーズ（技術指導、工学鑑定、監査業務等）の調査開発と、受け皿としてのシーズの整備を行う。
13. 中・四国、九州支部との合同セミナーを行う。
14. 技術士補対策について検討する。

(2) 九州技術士センター

当センターの平成12年度事業は「地域貢献」を基本コンセプトに、環境・エネルギー関連の事業展開を推進する。

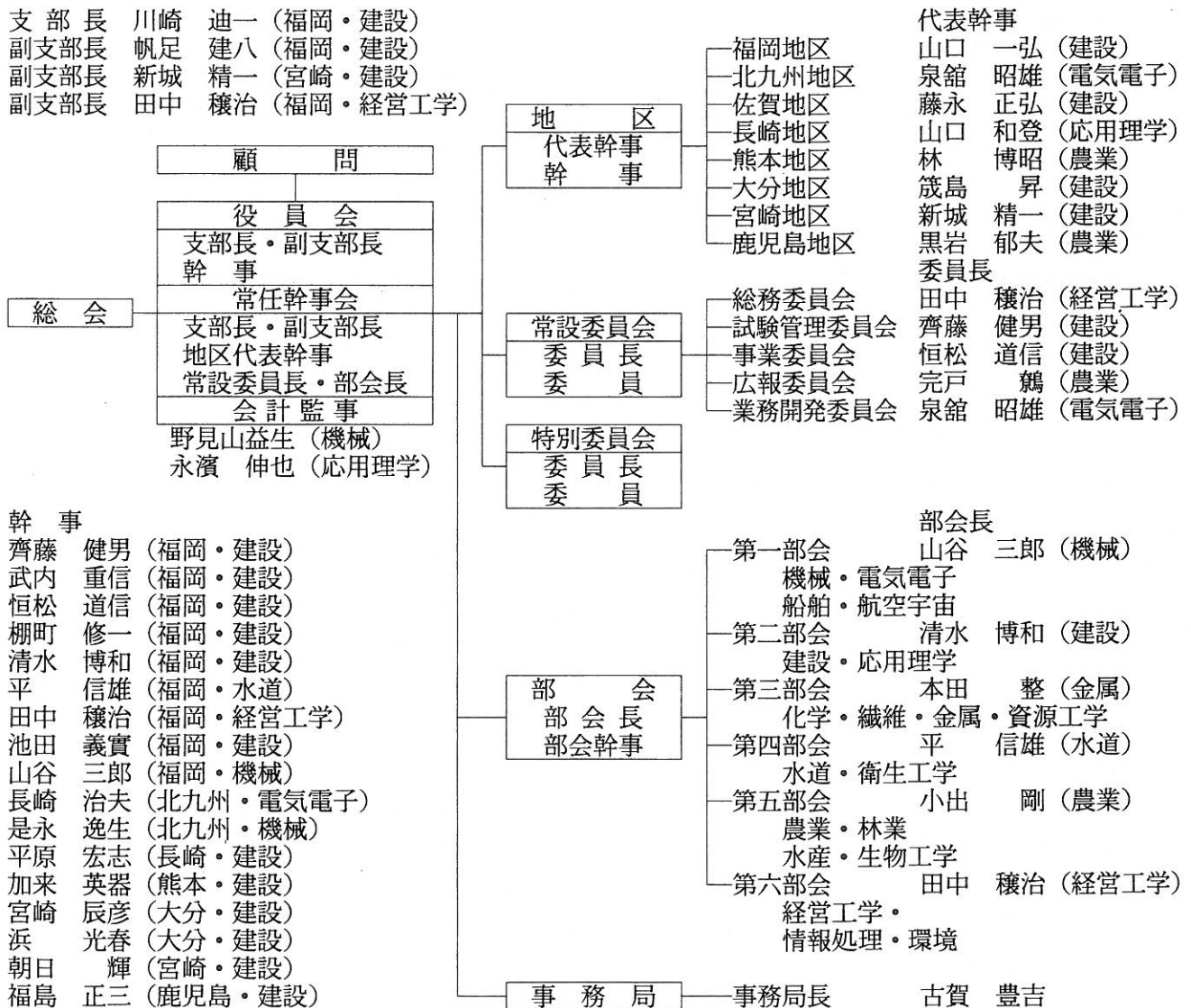
特に各地域の中小企業に対する技術支援のための

情報収集を行う。

重点目標はつぎの通り。

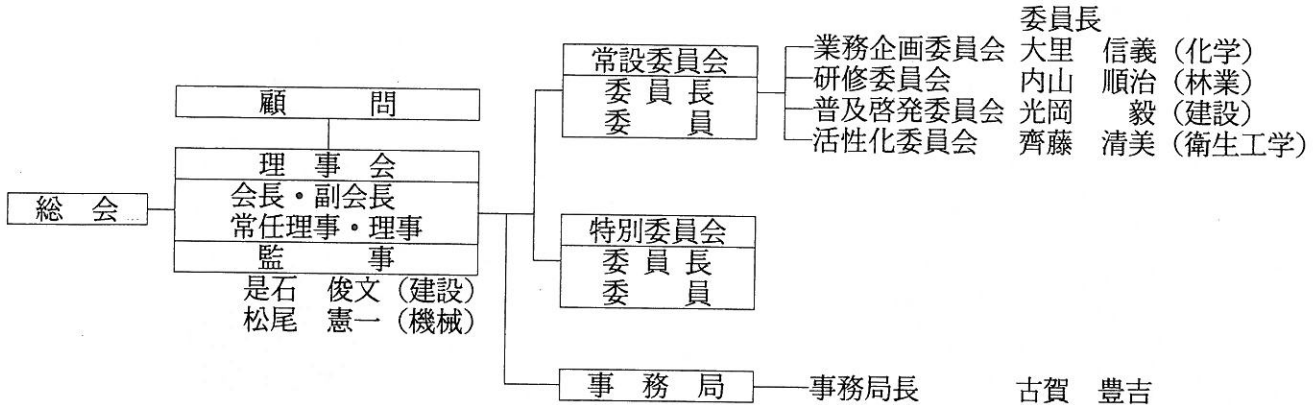
1. (社)日本技術士会九州支部が主催する事業に全面的に協力する。
2. 今年秋開催の「日韓技術士会議」を支援する。
3. 技術士受験対策講座の内容を充実し、積極的に取り組む。
4. ISO14000's, 9000's の認証取得支援業務の開拓を進める。
5. 「環境を考える研究会」(仮称)を立ち上げ、研究会、講演会を企画実施する。
6. 各地区の中小企業との交流を図り、情報交換の機会を得るセミナー等に参加する。
7. 各地区(県)の協力を得ながら会員増強に努める。
8. (有)九州技術支援センターの業務展開を積極的にバックアップする。

(社)日本技術士会九州支部組織図 (平成12年9月現在)



九州技術士センター組織図 (平成12年9月現在)

会長 重富 秀雄 (福岡・経営工学)
 副会長 箴島 昇 (大分・建設)
 副会長 笠木 直行 (福岡・建設)



理事

町田 貞徳 (福岡・電気電子)
 吉竹 正致 (福岡・建設)
 杣 辰雄 (福岡・建設)
 光岡 毅 (福岡・建設)
 津城 正 (福岡・建設)
 真鍋 和義 (福岡・水道)
 齊藤 清美 (福岡・衛生工学)
 西井 康浩 (北九州・建設)
 安西 敏雄 (北九州・金属)
 垣迫 裕俊 (北九州・建設)
 大里 信義 (北九州・化学)
 内山 順治 (佐賀・林業)

原田 彰 (佐賀・建設)
 成内 律男 (佐賀・応用理学)
 芳賀三千億 (長崎・経営工学)
 大橋 義美 (長崎・建設)
 山本 祐司 (熊本・建設)
 吉田 紘彬 (熊本・応用理学)
 宮野 和幸 (大分・建設)
 室之園泰昭 (大分・建設)
 井川 仁 (宮崎・建設)
 西田 靖 (宮崎・建設)
 稲田 博 (鹿児島・建設)
 新屋敷和明 (鹿児島・建設)

部会報告

第三部会研修会

講演：自分の製品を持って

第三部会長 本田 整 (北九州・金属)

7月15日土曜日に第三部会を行なった。今回は、北九州技術士会と合同で実施した。研修会には、第三部会から7名参加し、全技術士を入れると、23名の盛会となった。

泉館地区幹事より諸般の技術士情報の説明があったから、化学部門の技術士村谷俊雄先生からの御講演を頂いた。先生は、日本文理大学の工業化学科の教授で、環境衛生研究所の所長も兼任されておられる。当日の演題は、「雑排水の小型排水浄化処理技術について」であり、理論と実験、並びに装置の製作販売までを手がけられていて、極めてユニークな技術士活動をされているとのことである。

この意味から、先生の講演は非常に具体的で、先ず製品の販売価格を設定して、それにあう装置の

設計機能を有する商品を製作されているということである。

例えば、小型排水装置の設計にしても、ファミリーレストランが設置出来る、五百万から六百万の装置を製作されている。

この点は、非常に目の付け所が良いとも言える。

また最近では、古タイヤからA重油を製造する装置を3千6百万円で製作されている。

勿論、まだ完璧と言えない所もあると指摘されたが、先生のバイタル性には驚いてしまう。先生の理論は、「技術士は他社の技術援助をするばかりでなく、自分の製品を持って」ということである。

それにしても、技術士会と学会が、今後は技術教育を継続することを前提にして技術士資格を継続させるという趨勢にあるとき、まだまだ技術士の研修会への参加が少ないように思われる。ただ、今回は若い女性の佐々木さんに参加してもらい有難かった。

時代は、変わりつつあると言える。

平成12年度「環境を考える研究会」・九州支部/技術士センター 『戦略的環境影響評価とLCA』研修会

九州技術士センター研修委員長 内山 順治 (佐賀・林業)

I 主催と参加を呼びかける範囲

☆この研究会は、H12年度から、センター事業で、
全部門会員を対象に実施する。

1. 「環境を考える研究会」の活動目的

『環境・他の地域・次世代と共生する循環型社会を目指す技術体系の構築』

2. 当面の研修の主題

戦略的環境影響評価 (SEA) と LCA (Life Cycle Assessment)

3. 平成12年度の研修の指導講師

九州大学大学院 環境科学システム科学研究センター 教授 工専 井村秀文 先生

4. H12年度の講座 運営は参加者の費用負担により実施する。

希望者に対する集団研修 年3回 年内

九州全会員に対する講演 年1回

年末か年明けの年度末

☆研修主題及び講師の選定の理由

社会の意志決定が長期的な環境配慮のもと、透明性高く、合理的に行われる手段として、導入準備が急がれており、講師はこの研究で国を代表する当事者である。

II これまで実施した研究会の中間報告

第1回 平成12年6月29日 午後5時～2時間

福岡商工会議所

◎ 内容「戦略的環境影響評価とLCAの概要と基礎データ」

普遍化する世界の制度導入と国内準備の現状、

(8月20日現在)

ISO14040との連動等、社会資本整備における市民、企業、自治体、国、国際社会の関与、基礎データ作成への産業連関表、費用便益分析の利用と環境負荷の計測手法を具体的に説明された。

LCAの社会資本整備への適用は、誤りなき政策、立案、計画の選択の手段として市民、地域、企業、自治体、国の戦略上必須かつ有効と認識された。参加42名。

第2回 7月27日 午後5時～1時間40分

福岡商工会議所

◎ 内容「社会資本整備へのLCAの適用」

参加者 36名

井村教授を研究代表とし、九大、北大、東大、名大、京大、阪大等11大学と2研究機関15人の研究チームが分担、3年をかけ今年4月に纏められた分野別の事例研究を紹介。都市インフラ整備、面的開発、交通システム整備政策評価、廃棄物処理システム、リサイクルシステム評価、水循環システム、都市生活排水・廃棄物処理システムの統合評価、建築と都市整備へのLCA適用成果を示された。

第3回 (確定) 9月7日 (木曜)

午後5時から1時間30分 福岡商工会議所

◇ 主題「戦略的環境影響評価」

全ての業務戦略に有効な最先端情報を紹介。

○研修を受けられなかった希望者の皆様に、貴重なレジュメを販売します。申込みは支部へ。

第1回分 A4版58ページ 千円

第2回分 118ページ 2千円です。

九州支部と中小企業診断協会との連携について

業務開発委員会委員長 泉館 昭雄

両者の緩やかな連携に向けて、打合わせをし、相互に了解しました。これを踏まえて実務者連絡会議を始めています。両者の活動に関する諸情報を相互に交流するものです。皆様のご意見をお待ちします。

1. 連携に関する方向性の打合わせ

期 日 平成12年7月4日、企業振興公社会議室に於て、

出席者 支部；川崎支部長、田中副支部長、泉館業務開発委員長

診断協会；吉岡福岡県支部長、河合副支部長、松尾副支部長、藤川氏

2. 実務者連絡会

期 日 平成12年7月13日、及び8月3日、支部事務所に於て

出席者 支部；泉館業務開発委員長、向江同委員 診断協会；松尾副支部長

地域活動

北九州

本来業務の遂行を

代表幹事 泉館 昭雄（電気・電子）

技術士一人一人が、その持ち場立場で、本来業務を遂行することが、社会における技術士評価の基本であると共に、その組織的活動によりその成果が飛躍的に大きくなり、社会的プレゼンスを高めると考えます。重点事項は下記7項。

- 1) 月1回の月例技術研修会実施—技術士会活動の根源である。
- 2) 地域に根差した活動の活性化
- 3) 活動の広域化、多様化
- 4) 本部、支部、センター活動との連携と参加
- 5) 自身の技術装備の強化
- 6) 新規業務への積極参加
- 7) 会員増強と活動財源確保

この中で、3)活動の広域化、多様化については、北九州地区の会員が他地区で技術指導しています。逆に当地区以外の会員が当地区企業を指導することも計画しています。

5)では、当地区技術士主体の開発案件2件が、中小企業総合事業団、福岡県産業科学技術振興財団からそれぞれ委託されました。わが国 TOP LEVELの開発成果を期待しています。

技術研修会には他地区先生の発表も歓迎します。

年月日	題名	報告者
4月21日	九州国際空港に関するゲーム理論的考察	藤村秀樹
5月20日	発展途上国における非破壊検査事情	池田忠夫
6月16日	鋼材の強制制御冷却技術・設備現状	沼尻健次
7月15日	雑排水の小型排水浄化処理技術	村谷俊雄
9月16日	溶射技術・基礎と応用例	坂田一則
10月20日	大型サイクロンセラミックスの開発	是永逸雄
11月18日	リサイクル事業と社会システム	垣迫祐俊
12月16日	特別講演	
1月20日	蓄熱燃焼技術の現状と今後の動向	戸木康男
2月16日	石灰灰の有効利用としての1,2試み	河内大明

長崎

技術支援活動について

代表幹事 山口 和登（応用理学）

今年6月2日（金）に長崎県技術士会の通常総会を諫早市で開催したが、同時に会員の研修も合わせて行なうべく、研修会を開催した。

講師は長崎県商工労働部長の古川康氏でテーマを「産業振興と技術」と題して講演してもらい、更に活発な意見交換を行なった。

その際、技術支援活動の、特に技術士の技術支援活動について話題となったため、県技術士会としても技術支援活動に対して積極的に参加すべく、検討を行なった。具体的な活動予定内容について県技術士会の役員会で検討した結果、つぎの様な案が示された。

1. 住宅の品質検査に対する支援
2. 砂防フロンティアに対する支援
3. 支援体制を充実化させるための方策

であり、1及び3について具体的に述べることにす

る。

住宅の品質検査に対する支援の背景としては、本年度より発足した「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に関連するものであり、現在、各県の建築士会が検査、保証制度を準備中である。

しかし、建築士会の動きは、瑕疵担保責任の範囲に止まるものであり、制度としては更に、性能評価、評価を受けた物件の紛争処理、評価を受けていない物件の紛争処理をする機関の手当が必要である。

これらの機関を立ち上げるには多くの問題を解決していく必要があり、そのためには多方面からの支援が必要とされている。この機関の技術的支援の一翼として、多方面技術集団の技術士会の参画が期待されている訳である。

これらの支援をスムーズにかつ成功させるためには、多方面からの情報を県内会員により確実迅速に伝え、検討する必要がある。現在の情報化社会に対応すべく、更なる会員名簿の整備、連絡体制の確立をすべく準備中であり、今年度中には整備できる方向で作業進行中である。

熊本

熊本県技術士会活動

広報委員 吉田 紘彬 (応用理学)

熊本県技術士会の平成12年度事業計画は、

- ①地域に密着した技術士制度及び業務の充実強化と業域の拡大に努める。
- ②会員の親睦を深めると共に会の運営を円滑に勤める。
- ③技術士第1次・第2次試験の案内及び説明会等を開催する。
- ④土木学会主催「土木の日」の事業を支援する。等を4月25日の総会で議決しています。

(社)日本技術士会プロジェクトチーム熊本技術センターは熊本県技術士会の支援活動を行うと共に、従来からの継続テーマとして、

- ①有明海・八代海沿岸開発の具体的構想の研究
 - ②地域エネルギーの活用として阿蘇外輪山風力発電に関する研究
 - ③水俣エコタウン事業の具体化構想案の研究
 - ④異業種交流事業の推進
- 等を掲げ、11月には(社)日本技術士会九州支部農業部

会とも計り「有明海・八代海沿岸開発と環境保全」に関するシンポジウムを予定しています。また、これらの活動結果をとりまとめて、機関誌「熊本技術センター情報誌」を発行する予定です。

昨年の国体以降、特に落ち込みがひどい建設及びその関連業に携わる者には、生き残りをかけて精一杯のところ、少し明るい話題として、若手建設・環境・応用理学部門技術士による熊本県建設コンサルタント協会の立上りがあります。今年初めに準備委員会(1/17)・発起人準備委員会(1/30)・発起人会(2/21)入会申込み者を募り3月27日に設立準備総会を開き、4月1日から最初の事業年度に入っております。

“建設技術力の向上と優れた技術者の育成・確保”を掲げて早速、技術士資格取得支援講習会(第1回:5/20・第2回:6/24・第3回:7/22)を開催し、7月15日には熊本高森線俵山第1トンネルと高森周辺の現地見学会を実施しており、今後は ①11月11日:土木の日イベント参加 ②11・12月頃:技術研究発表会 ③その他、RCCM資格取得支援講習会・パンフレット作成・協会誌発行を予定しています。若い活力に期待しているところです。

宮崎

県・宮大との連繫

代表幹事 新城 精一 (建設)

●宮崎県では、九州で唯一、コンサルタント業務発注の指名要件として、コンサルタント登録を建設省並に厳しく義務付けているため、登録部門の技術士はその恩恵に浴しているわけですが、反面、登録目的のために県外の技術士の名義借りが多く、組織率が低いと見られる一因にもなっています。また、最近では、県職員の技術力が低下し、成果品の検収や会計検査の対応に充分ではないとの判断から、技術力向上のために、“技術士”の取得を強力に呼びかけており、おかげで、願書配布説明会や、講習会にも多数参加してもらうようになりました。また、日常的にも受験指導をお願いされる事が多くなりました。

●宮大では、技術士・補の取得を積極的に奨励されてきました。県技術士会でも要請されて、何回か、

学生を対象に技術士・補の講演会・講習会を実施してきましたが、卒業生に対しても、会報を通じて技術士・補の記事や合格者の体験談を毎年紹介されてきました。博士課程への社会人入学者に対しても、技術士の受験指導をあわせて実施されており、JABEEの設立とともに、いち早く認定取得をめざし、カリキュラムの変更を実施されましたし、修習技術士を補佐する指導技術士に対しても協力要請がきているところです。また、宮大主導で実施されてきた「土木の日」の行事も本部の他に11地区のブロックで実施され、全県的な盛り上がりを見せております。

●県・宮大の技術士に対するご理解とご支援のお陰で、建設部門を中心とした登録部門の技術士は比較的恵まれた状況にありますが、それ以外の部門に対してどう対応していくかが今後の課題であり、また、技術士法が改正され、継続教育や修習技術士を支援していくためにも、地域との連携を強め組織化し活発化していくことがますます重要になってくると思われまます。

「東洋，日本の哲学・霧と松」

竹内 良治（北九州・建設，水道，衛生工学）

四月，春眠を貪っていたとき，消し忘れた ETV から写真 1 の画面が映っていた。音声は全く聴き取れなかったが，山水画だけが頭に深く刻み込まれた。

一方，友人から「スモールイズビューティフル再論」を薦められ，購読したが，初論の焼き直しで平凡であった。ところが，巻末の書籍広告の中に桑子敏雄「環境の哲学」があった。私が氏に注目したのは『明日への JCCA』199号で中村良夫先生との対談が契機である。

氏はアリストテレス哲学の第一人者と期待され，ケンブリッジに留学した。帰国時にアリストテレスを生んだギリシャに逗留した際，木のない岩山を見て，山に木のある東洋の哲学を学ぶ。それから10年，朱子学や八卦にはまり，「気相の哲学」，「空間と身体」を著す。さらに日本哲学に入り，「西行の風景」で日本人の深象に迫り，「環境の哲学」と相成った。本書は西行，慈円，蕃山を哲学者として評価し，近代西洋の優等生（正岡子規，丸山眞男）らが歌人，坊主，土木屋と見た浅い思考を指弾している。

「環境の哲学」を読み進むうち，写真 1 と再び巡り合った。ここで初めて，長谷川等伯筆「松林図」であり，その解説で，日本人の美意識遺伝子を表現したわが国最高傑作とあった。したがって，TV を通しても日本人の脳裏に焼き付くのは当然のことであった。

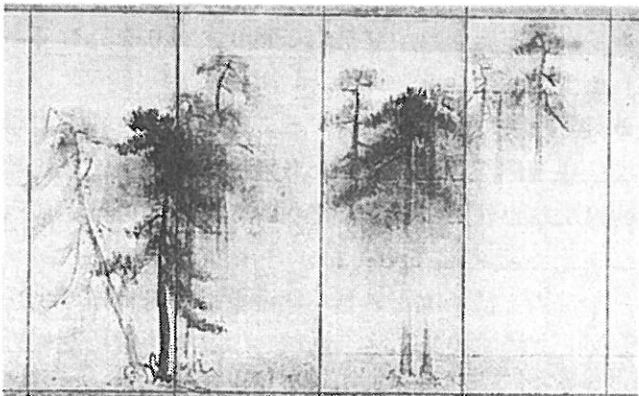


写真 1 長谷川等伯筆「松林図」(部分)

山水画のことを考えていると，6月末の赤旗新聞の「ひと」に写真家「汪蕪生」の黄山山水写真展（写真 2）が紹介されていた。その中で「就職活動中の女子学生が涙を流して握手を求めてくる」とあり，東京の友人に記事を添えて代理観賞を依頼した。早速，友人から小包が届き，素晴らしい写真展を紹介してくれたお礼と写真集「天上の山々」，ポスターが贈られてきた。山水写真はまさに現在の「松林図」である。

「環境の哲学」を再読していると，3年間，出張ゼロの現職に7月末の金，土に京都出張の機会が巡ってきた。なんだか天啓のようなものを感じ，西行，慈円が会った比叡山を拝観することとし，土地勘がないので定期観光バス「比叡山，三千院」コースを予約した。

当日，東塔根本中堂はナポレオン風に言うと，1200年の生きた歴史が私を見下ろしていた。そこで，鎌倉仏教の祖師方（法然，親鸞，日蓮，栄西，道元など）がここから出られたことを初めて知り，比叡山は日本仏教の母胎であることを実感する。正に「気」に充ち満ちた空間であった。

三千院では明治の日本画家竹内栖鳳の襖絵「御殿馬場風景」が興味をひいた。写真 1 の構図で松の木を杉の木に変えた意匠（盗作）である。

二泊三日の在京中，長谷川等伯の作品「楓図」，息

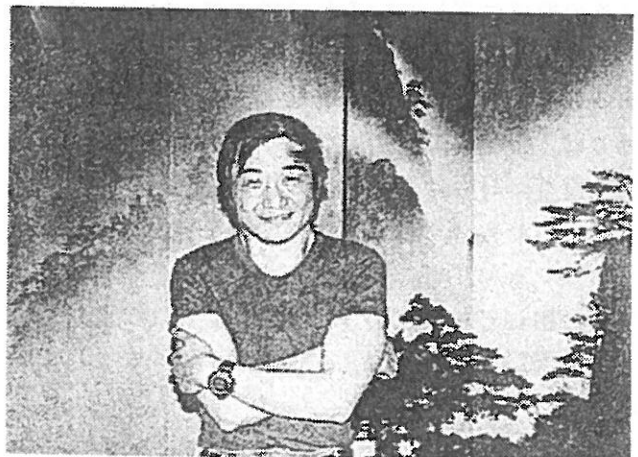


写真 2 汪蕪生氏と山水写真（赤旗 H12.6.28）

子久蔵の「桜図」がある智積院に二度訪れたが、渋滞などで拝観できなかった。この作品はついでに観るものではないということか。

帰って昼休みに「松林図」を観ていると、若い女性職員がこの絵は朝日新聞に載っていて、記事を読んでいつか実物を見たいと思って保存している言うではないか。早速、記事(H12.4.9.日曜版)を借り、拝読すると、大企業(狩野永徳)とベンチャー(長谷川親子)との戦いで、ベンチャーが利休、秀吉に認められ、勝利する。しかし、遠謀術策に長けた狩野派に息子を殺されてしまう悲話であった。「松林

図」は息子を亡くし、涙を枯らした等伯の慟哭の叫びと知り、この絵の深さに感動を新たにした。

おわりに「環境の哲学」に戻ると、後天性読書屋にとって易しい本ではない。再々読中であるが、空間、闇、静寂の大切さが強調されている。私なりの解釈をすると、十本より百本のバラ(もの)が西洋美であり、書院の床の間に掛け軸を借景とした生け花(空間)が日本の美である。また、本書と写真集に同じ文章が目をついた。現在の閉塞した社会をつくった原因はデカルトに代表される近代西洋哲学にあると。

MCE 福岡設立発会式

及び記念パーティー

田村 陽右(福岡・衛生工学)

「YCE 福岡」(Young Consulting Engineers 福岡)を定年(満50歳)で卒業した面々は、真鍋氏の起案によりそのOB会的組織として「MCE 福岡」(Middle Consulting Engineers 福岡)を発足させることになりました。会の趣旨は「YCE」に習い、サロンの雰囲気の中で「人間交流」「技術交流」を図ろうとするものです。

約半年間の準備期間を経て、去る平成12年7月22日(土)16:00~20:00にホテルクリオコート博多で設立発会式と記念パーティーを催しました。九州技術士会の幹部及び「MCE 福岡」の有志の援助出席を頂き、合計27名の出席者となりました。

2時間の行程の内、メインテーマである挨拶・設立趣旨説明・運営方針説明については、ご来賓のご好意により儀式的な部分を最小限に割愛させていただき約30分で終え、大半の1時間半を特別講演に割きました。ここでは講演内容について、私なりの解釈で要旨を記します。

- ①講師は宇根豊氏。氏は福岡県の農業改良普及員として、農業に依存しすぎた農業が自然を破壊していく実態に直面した。そこで農業の自然との共生を理想に掲げ、減農薬法を研究し提案してきた。現在「農と自然の研究所」を設立し、稲作の減農薬法を実践しながら啓蒙活動を行っている。
- ②田んぼは百姓が数世紀に渡って作り出した「人工」の自然で、放置された「天然」の自然より、

より生き物にやさしい。それは赤とんぼ、めだか等われわれの「心のふるさと」のシンボルを育ててきた。

- ③農薬は、益虫・害虫及び無名の「只の虫」等ほとんど全ての生き物を死滅させ、田んぼと自然との共生関係を破壊してしまった。

それは近未来の大々的な地球環境破壊を予告する前兆とも言える。

- ④減農薬法の実践により田んぼに赤とんぼとめだかがよみがえってきた。
- ⑤減農薬法は全国に普及しつつあるが、百姓の自覚だけでは普遍化しない。減農薬法は農薬主体の近代農法に生産効率の面で劣っているからである。普及の為には一般消費者と国の理解と援助が不可欠である。

引き続いての記念パーティーは手頃な人数と顔見知りの同士が多数だったこともあって、和気藹々のムードで終始しました。中間に1分間スピーチを全員にお願いしましたところ、目立ったのは宇根さんの講演に感銘・共鳴の発言が多かったことでした。曰く「日常の業務で技術と自然環境の共生が不可欠という観点をおろそかにしがちであった。宇根さんの講演を肝に銘じたい」等々。私も公害産業に身を置きながら、目先(儲け)にとらわれ、長期展望(地球環境の保全)を見失いがちです。技術の進歩そのものが環境を破壊する元凶であるといえるのかもしれない。「後世に負の遺産を残してはならない」と、国の多額の負債が糾弾されていますが、環境破壊こそが取り返しのつかない「負の遺産」でしょう。

「MCE」の技術交流のテーマとして、今後諸兄と議論を交わしたいものです。

4回にわたり技術士と国家資格について述べましたが、内容の詳細について多くの方から問い合わせを頂きました。今後資格を取得される上で何かの参考になれば、紹介し甲斐があったと嬉しく思います。この記事は「技術士だより」ばかりでなく、日本技術士会九州支部のホームページにも掲載していますが、問合わせに対応するため筆者のメールアドレスを付記したら、会員外の方からも何通かのE-mailを頂戴しました。昨年6月15日号の「環境カウンセラー」は特に多く、如何に皆さんが環境問題に関心を持っているかを知ると同時に、一般の人も技術士会の動きをウオッチしているのに驚きました。

今まで紹介した国家資格の他にも、特定部門の技術士であれば、受験に学科試験の一部免除や認定講習だけで資格が取得可能な幾つかがあります。特に建設系の方は資格がないと仕事が出来ないので、現に多くの方が複数の国家資格を所持しておられます。

資格取得の目的は業務のため、ステータスのため、学習の対象といろいろあると思います。資格の取得は当該業務の専門家としての出発点で、技術士資格と同様に絶えず学習しなければ、単なる資格マニアになってしまいます。

なお、資格取得を生涯学習の対象と考えておられる方には、環境関係・省エネ関係資格をお勧めします。その中の1～2を紹介しますと、

1. ダイオキシン類関係公害防止管理者

平成11年7月16日「ダイオキシン類対策特別措置法」が公布され、これに基づき平成13年7月16日からダイオキシン類発生施設を有する工場では、「ダイオキシン類公害防止管理者」を選任し、都道府県知事に届出が義務付けられました。

ダイオキシン類公害防止管理者の資格を取得するには、国家試験に合格するか、認定講習を受講するかです。

(1)国家試験の受験

- ①第1回の試験は平成13年3月18日(金)、福岡市を含む全国9都市で行なわれます。
- ②学歴、年齢その他一切制限はありません。
- ③願書の配布は平成13年1月中の予定です。

(2)資格認定講習の受講

- ①平成13年6月初旬、東京、名古屋、大阪で開催される予定です。

②受講資格

i)技術資格

技術士(化学部門)、大気第1又は2種公害防止管理者で、且つ水質第1又は2種公害防止管理者の有資格者、薬剤師等であること。

ii)経歴資格

学歴により3～7年の実務経験が必要です。

2. エネルギー管理士

古くて新しい資格です。日本のエネルギー事情の節目々々にはクローズアップされます。熱管理士試験として昭和25年頃スタートし、技術士試験が未だ始まっていない時代には、技術系の試験としては、最も難しい権威のあるものでした。その後電気管理士が設けられエネルギー管理士試験となりました。資格の取得には1.と同様に国家試験の受験と認定講習の受講による方法があります。

(1)国家試験の受験

試験は毎年8月に福岡市を含む、全国10都市で行われます。試験科目は、従来は6科目で計算問題や短答式の筆記試験でしたが、平成10年の法改訂で昨年4科目のマークシート方式に変わりました。平成11年度の合格率は対受験者で、熱管理士：33.6%、電気管理士：18.8%でした。

(2)資格認定研修の受講

認定研修は福岡市を含む、全国6都市で6日間の日程で行われます。改訂前は、機械系及び電気・電子の技術士は優先的に認定研修が受けられましたが、改訂後は技術資格は不要となり申込み順になっています。極論すれば受講者は事務屋でもよい訳ですが、研修修了試験に合格しなければエネルギー管理士の資格は認定してもらえません。平成11年度の認定率は対受講者、熱管理士：82.0%、電気管理士：78.8%でした。省エネの観点からすれば、エネルギー管理士の業務はますます重要性が増してくると思います。試験には技術士としての特典はありませんが、一人でも多くの方がチャレンジされることを望みます。

本シリーズは今回を以て終了しますが、またその内、違った切口で資格問題を取上げる積りです。

(文責：田中)

会員ニュース

☆社日本技術士会（九州支部）入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段：連絡先/下段：勤務先) ＜連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ＞	☎(92)583-8023 FAX(92)575-3804
福岡	正会員	久富 浩明	情報工学	〒816-0094 福岡市博多区諸岡4-20-8 勤：(株)第一復建(株)総合設計部	☎(92)575-0256 FAX(92)575-3804
大分	正会員	梶原宏一郎	情報工学	〒870-0134 大分市大字猪野613-2-102 勤：東亜コンサルタント(株)	☎(97)558-4884 FAX(97)552-6344
熊本	正会員	平林 榮裕	農業	〒862-0937 熊本市長嶺西1-12-2 勤：太陽コンサルタンツ(株)九州支社	☎(96)382-3775 FAX(96)387-6238
北九州	正会員	松原 好直	水道	〒805-0014 北九州市八幡東区荒生田1-4-4-1203 勤：日本理水設計(株)九州支店	☎(93)652-8690 FAX(92)412-1076
福岡	正会員	山本 和幸	建設	〒818-0105 太宰府市都府楼南4-30-12 勤：(株)オリエンタルコンサルタンツ	☎(92)411-6209 FAX(92)411-3086
福岡	正会員	松崎 宏文	建設	〒816-0075 福岡市博多区竹下5-23-11 アンピール第2竹下 勤：(株)オリエンタルコンサルタンツ総合技術部	☎(92)431-3102 FAX(92)411-3086
熊本	正会員	水野 宏二	建設	〒861-4142 熊本県下益城郡富合町杉島26 勤：(株)双葉工務店	☎(96)357-3437 FAX(96)357-2279
熊本	正会員	田尻 雅則	建設	〒862-0941 熊本市出水8-1-30 勤：(株)双葉工務店	☎(96)364-2797 FAX(96)357-2279
熊本	正会員	桑畑 俊郎	農業	〒862-0930 熊本市小山町647-7 勤：(株)オークスコンサルタント計画部	☎(96)389-8111 FAX(96)389-6600
大分	正会員	工藤 勝宏	生産	〒870-6851 大分市大石町4-1-2 勤：(株)西日本科学技術研究所大分分室	☎(97)544-1642 FAX(97)543-1221
福岡	正会員	青龍 靖則	建設	〒812-0011 福岡市博多区博多駅南3-37-5 パンネックスクリスタル1005 勤：(株)オリエンタルコンサルタンツ九州支社総合技術部	☎(92)483-0180 FAX(92)411-3086
北九州	正会員	坂田 一則	金属	〒808-0109 北九州市八幡東区宮の町1-6-13 勤：富士岐工産(株)技術室	☎(93)651-6296 FAX(93)791-9330
鹿児島	正会員	前田 俊秀	応用理学	〒891-1204 鹿児島市花野光ヶ丘2-52-8 勤：鹿児島松下電子(株)開発センターSMD開発室	☎(99)228-1002 FAX(99)246-5238
福岡	正会員	馬場崎正博	環境	〒811-0215 福岡市東区高美台4-25-10 勤：福岡市環境局環境保全部環境調整課	☎(92)607-7667 FAX(92)733-5592
熊本	正会員	谷富 弘幸	農業	〒861-5512 熊本市梶尾町312 勤：開成工業(株)設計製造本部	☎(92)245-0305 FAX(96)273-3654
福岡	正会員	執行 孝幸	建設	〒816-0874 春日市原町1-106-1 勤：九州建設コンサルタント(株)福岡支店技術部	☎(92)573-1448 FAX(92)526-3291
福岡	正会員	山下 和博	農業	〒816-0874 春日市大和町5-1-1-119 勤：(株)日設コンサルタント	☎(92)592-2009 FAX(92)262-2388
福岡	正会員	藤島 義久	建設	〒830-0047 久留米市津福本町1760-12 勤：福岡県飯塚土木事務所維持課	☎(942)38-4681 FAX(948)25-6280
北九州	正会員	古川 信之	化学	〒803-0836 北九州市小倉北区中井4-6-14-707 勤：新日鐵化学(株)総合研究所基礎素材開発センター	☎(93)562-9192 FAX(93)884-1923
熊本	正会員	内田 導博	建設	〒862-5271 熊本市中原町928 勤：丸昭建設(株)熊本支店	☎(96)329-8424 FAX(96)384-4667
福岡	正会員	白土 泰樹	建設	〒811-1344 福岡市南区三宅2-25-27 勤：(株)シビル	☎(92)512-7816 FAX(92)533-7786
熊本	正会員	杉永 富輝	農業	〒861-2232 熊本県上益城郡益城町馬水617-3 勤：住友建設(株)九州支店土木営業部熊本営業所駐在	☎(96)286-7120 FAX(96)364-1133
福岡	正会員	原田 政太	建設	〒811-2103 粕屋郡宇美町四王寺坂1-22-2 勤：(株)エスケイエンジニアリング設計部	☎(92)933-5518 FAX(92)925-4913
宮崎	正会員	迫田 茂実	水道	〒880-0944 宮崎市江南2-21-11 勤：りんかい建設(株)鹿児島営業所	☎(985)52-6664 FAX(99)222-7178
熊本	正会員	岩内 明子	応用理学	〒860-0862 熊本市黒髪2-26-32 大岳荘101号 勤：(株)アバンス技術部	☎(96)345-7083 FAX(96)368-9053
長崎	正会員	葭谷 武司	応用理学	〒851-2126 長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷1221-73 勤：(株)親和テクノ技術部調査設計課	☎(95)883-6876 FAX(957)22-7007
福岡	正会員	松井 秀一	建設	〒866-0893 八代市海上江町3239-1 勤：大豊建設(株)九州支店	☎(965)31-7960 FAX(92)473-8684
福岡	正会員	島常 信	建設	〒819-0164 福岡市西区今宿町539-50 勤：朝日開発コンサルタンツ(株)福岡営業所	☎(92)807-1385 FAX(92)451-0449
福岡	準会員	徳岡 順治	電気・電子	〒810-0023 福岡市中央区警固2-17-26 秀和警固レジデンス403号 勤：(株)産研設計	☎(92)771-2436 FAX(92)713-7050

☆九州技術士センター 入会

(上段：連絡先／下段：勤務先)

<連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ>

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(連絡先)	(勤務先)
福岡	正会員	青山 博士	金属	〒811-1302 福岡市南区井尻3丁目20-2-1005 勤：青山技術士事務所	☎(092)591-9768
宮崎	正会員	北原 毅	建設	〒880-0925 宮崎市本郷北方3406-45 勤：建設省宮崎維持出張所	☎(0985)50-8630 FAX(0985)39-4924
福岡	正会員	宮原 孝平	建設	〒801-0071 福岡市南区平和2-14-9-201 勤：(株)間組九州支店	☎(092)531-7611 ☎(092)531-5031
福岡	正会員	須股 幸信	建設	〒819-0042 福岡市西区荻岐団地130-9 勤：(株)東亜コンサルタント	☎(092)415-1512 FAX(092)431-5398
熊本	正会員	杉永 富輝	建設	〒861-2232 熊本県上益城郡益城町馬水617-3 勤：住友建設(株)九州支店 熊本営業所	☎(096)364-1100 FAX(096)364-1133
福岡	正会員	井上 道則	応用理学	〒816-0981 大野城市若草1-8-10 勤：(株)アイエヌ・エー九州支店	☎(092)596-2738 ☎(092)595-2555 FAX(092)595-2221

☆会員連絡先(住所)および勤務変更

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(変更)
福岡	正会員	山口 啓司	機械	勤：〒810-0041 福岡市中央区大名2-5-31 福岡市交通局車輛課
福岡	正会員	平島 稔	電気電子	勤：上記に同じ
福岡	正会員	廣崎 豊伸	電気電子	勤：〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-1-82 九州電力(株)火力部
福岡	正会員	毛利 勝則	電気電子	勤：〒813-0023 福岡市東区蒲田5-11-1 福岡市環境局施設部東部工場
福岡	正会員	阿部 利行	建設	勤：〒813-0043 福岡市東区名島5-4-8 (株)建設技術コンサルタンツ福岡事務所
福岡	正会員	井浦 敏彦	建設	勤：〒812-0044 福岡市博多区千代5-1-4-236 県北コンサルタント(株)福岡支店
宮崎	正会員	今村太司郎	建設	勤：〒880-1101 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄4854 日測コンサルタント(株)
福岡	正会員	大橋光太郎	建設	連：〒816-0801 春日市春日原東町4-17
福岡	正会員	片山 宗法	建設	勤：〒811-2413 粕屋郡篠栗町尾仲517-1 西日本コントラクト(株)
福岡	正会員	甲斐 良徳	建設	勤：〒810-0075 福岡市中央区港2-5-3-1401 連：ライト工業(株)九州支店 〒812-0043 福岡市博多区堅粕1-28-44
福岡	正会員	上堂園勝久	建設	勤：〒815-0031 福岡市南区清水1-10-2 アジアエンジニアリング(株)
福岡	正会員	川原 伸孝	建設	勤：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-10-7 九地建企画部技術管理課
福岡	正会員	久保 朝雄	建設	勤：〒862-0929 熊本市西原1-12-1 九地建熊本工事事務所
福岡	正会員	黒木 康夫	建設	勤：〒810-0042 福岡市中央区赤坂2-2-10-701 (株)松川測量設計福岡連絡事務所
福岡	正会員	神澤貢馬生	建設	勤：〒812-0006 福岡市博多区上牟田3-7-18 (株)エスピーエンジニアリング
福岡	正会員	境 睦人	建設	勤：〒815-0031 福岡市南区清水1-15-18 新日本グラウト工業(株)
福岡	正会員	島 常信	建設	勤：〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-13-7 松岡ビル5F 朝日開発コンサルタンツ(株)
福岡	正会員	田中 康男	建設	勤：〒882-0062 延岡市松山町1170~1 太陽技術コンサルタント(株)
福岡	正会員	田中 征夫	建設	勤：〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2-18-2 九州電力(株)土木部

御協力いただいている 賛 助 会 員

〔福岡〕

(株)久栄総合コンサルタント
 (株)建設環境研究所
 (株)唯設計事務所
 日本建設コンサルタント(株)九州支店
 中央開発(株)九州事業部
 (株)ダイヤコンサルタント西日本支社
 福岡支店
 日本工営(株)福岡支店
 昭和地下工業(株)
 第一復建(株)
 (株)松本組
 (株)エスケイエンジニアリング
 (株)東亜コンサルタント
 (株)福山コンサルタント
 (株)東京建設コンサルタント九州支店
 東亜建設技術(株)
 精巧エンジニアリング(株)福岡支店
 東邦地下工機(株)
 大成ジオテック(株)
 富洋設計(株)九州支社
 九州建設コンサルタント(株)福岡支店
 応用地質(株)九州支社
 日本海洋コンサルタント(株)
 九州事務所
 (株)サンコンサル
 芳野測量設計(株)
 (株)橋梁コンサルタント福岡支社
 (株)アイ・エヌ・エー九州支社
 (株)九州地質コンサルタント
 (株)タイヨー設計
 日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店
 (株)大建
 (株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)エス・ピー・エンジニアリング
 (株)アジア建設コンサルタント
 新地研工業(株)
 (株)カミナガ
 (株)構造技術センター
 平和測量設計(株)
 基礎地盤コンサルタント(株)九州支社
 (株)高崎総合コンサルタント
 西日本コントラクト(株)
 西鉄シーイーコンサルタント(株)
 町田電気管理・技術士事務所
 日本地研(株)
 第一設計(株)

九州環境技術研究所

西日本技術開発(株)

(株)富士ピーエス

日本技術開発(株)

〔北九州〕

日本航測(株)

(株)吾水総合コンサルタント

九和設計(株)

(株)押川測量設計

(株)都市開発コンサルタント

九州テクノロジーサーチ(株)

第一復建(株)九州事務所

(株)松尾設計

(株)酒見設計

(株)太平設計

冷牟田設計コンサルタント(株)

山九(株)鉄鋼事業本部鉄鋼技術部

(株)安川電機

(株)中村測建

〔佐賀〕

(株)精工コンサルタント

新九州測量設計(株)

日本建設技術(株)

(株)九州構造設計

新栄地研(株)

九州技術開発(株)

〔長崎〕

大栄開発(株)

(株)実光測量設計

西日本菱重興産(株)

太洋技研(株)

(株)親和テクノ

扇精光(株)

西海地研(株)

〔熊本〕

(株)九州開発エンジニアリング

アジアプランニング(株)

〔大分〕

佐伯調査測量設計(株)

松本技術コンサルタント(株)

協同エンジニアリング(株)

(株)日建コンサルタント

東亜コンサルタント(株)

(株)テクノコンサルタント

南海測量設計(株)

九州特殊土木(株)

大洋測量設計(株)

九州建設コンサルタント(株)

西日本コンサルタント(株)

南武測量設計(株)

東洋測量設計(株)

九建設計(株)

日進コンサルタント(株)

ダイエーコンサルタント(株)

〔宮崎〕

(株)弓場水工コンサルタント

(株)ケイディエム

(株)国土地質調査事務所

南日本総合コンサルタント(株)

(株)宮崎産業開発

(株)西田技術開発コンサルタント

(株)共和コンサルタンツ

(有)福島測量設計調査事務所

九州工営(株)

(有)久保測量設計コンサルタント

正栄技術コンサルタント(株)

(株)東九州コンサルタント

(有)日豊測量設計事務所

日測コンサルタント(株)

(株)水理設計

(株)ダイワコンサルタント

(株)杉田測量設計コンサルタント

(株)ジオセンター M

(株)都南開発コンサルタント

(株)アップス

(有)カツキ技術士事務所

(株)共同技術コンサルタント

(株)総合開発工業

(株)国土開発コンサルタント

〔鹿児島〕

中央テクノ(株)

朝日開発コンサルタンツ(株)

小牧建設(株)

(株)久永コンサルタント

コーアツ工業(株)

大協(株)

新和技術コンサルタント(株)

(株)中村測量設計

(株)日峰測地

(株)大紀造園設計事務所

(株)建設技術コンサルタンツ

〔沖縄〕

(株)沖縄プランニング

技術士の義務・責務

技術士第二次試験の面接で、かならず質問されるのが「技術士の義務とは何ですか」ということ。

いままでは、①技術士の信用を傷つけ、全体の不名誉となるような行為をしてはならない（信用失墜行為の禁止）②その業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は盗用してはならない（秘密保持の義務）③技術士の名称を表示するときは、登録を受けた技術部門を明示してする（名称表示の場合の義務）の三つを挙げればよかった。これは「技術士法」の第四章（第44～46条）にはっきり定められている。もちろん技術士補にも当てはまることである。

ところが来年4月1日に施行される「技術士法の改正」では、新しく「技術士の責務」が二つ加えられた。その一つは「技術士又は技術士補は、その業務を行うに当たっては、公共の安全、環境の保全その他の公益を害することのないよう務めなければならない（公益確保の責務、第45条の2）」二つ目は「技術士は、常に、その業務に関して有する知識及び技能の水準を向上させ、その他その資質の向上を図るよう努めなければならない（資質向上の責務、第47条の2）」の二つである。

面接回答もさることながら、こんど加わった二つを併せた「五つの義務・責務」は、技術士、技術士補の誰もが、いつも、どんな場合にも銘記し、実践しなければならないことであろう。（広報委）

会誌“技術士”最近の主要目次

平成12年6月号

- ・巻頭言 技術士補の資格を大学工学部卒業生の学力認定に活用 / 前田英勝
- ・自然との共生—生物多様性— / 木崎秀一
- ・最近の空気調和設備の動向について / 木村正彦
- ・ISO14001と継続的改善に関する考察 / 蜂須賀邦夫
- ・私の技術士考 / 下垣光太郎
- ・「長距離バスについての提案」後日記 / 福谷光雄
- ・地域間交流研修会に出席して / 野林輝生
- ・技術士法の一部を改正する法案の成立

平成12年7月号

- ・巻頭言 ライフスタイルを変える / 平野侃三
- ・ミニ特集「技術・技能」の伝承、保全
中小製造業における問題点 / 片野俊雄
電機機器製造業における問題点 / 野田廣太郎
自動車工業における問題点 / 吉野達夫
産業機械製造業における問題点 / 河上栄忠
プラント建設における問題点 / 水谷勝嗣
- ・技術・技能継承・伝承の一手法としての建築設備
施工ソフトの制作 / 田中久雄

平成12年8月号

- ・巻頭言 科学者・技術者のモラル / 小沼通二
- ・ソフトウェア料金とライセンス方式 / 千田正彦
- ・直面しているごみの現状と今後のごみ処理の方向性 / 水流純雄
- ・もう一つのポンプ技術 / 吉岡健

- ・関西 ITS 推進協議会の設立について / 中野雅弘
- ・APEC 及び EMP のバンクーバー会議報告 / 堀内純夫
- ・技術士継続教育（CPD）実施方策検討委員会の検討結果について

編集後記

この号には、たまたま「名人芸と褒賞」「説得と人格」「東洋、日本の哲学・霧と松」と“技術士は人間だぞ・・・”という声が聞こえてくる記事が揃いました。これが、我々がもつ『技術』にいのちを通わせるよすがともなれば幸せです。

今年度のメインイベントである日韓技術士会議が迫ってきました。参加要領の詳細が、実行小委員会から案内されています（4頁）。韓国とは隣同士の九州からは、一人でも多くの方々に参加していただいて、韓国技術士の方々と賑やかに、ふれあいの時をもちたいものだと思います。（完戸）

発行：(株)日本技術士会九州支部
九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4442

E-mail: engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL:

http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター： ☎/FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社